農作業が心理面に及ぼす影響
── JALサンライトの事例 ──

主任研究員　尾中謙治

1　対象者と調査の概要

日本航空(株)の特例子会社である(株)JALサンライトの業務は、航空輸送を支える業務をはじめとしてカフェやネイルルームの運営など多様である。2017年からは新たなチャレンジとして農作業受託を行っており、今後は農業に主体的に取り組むことも検討している。そこで、農業参入のトライアルとして、ビニールハウスでトマトやナスの収穫を実施することとなった。当初は、JALサンライトの農業専門のチームで作業をする予定だったが、すべてを農業チームではできないことから、社内で農作業の協力者を募った。その結果、役員を含む社員21名が農作業に参加することとなった。

調査対象者はその21名、うち軽度知的障がい者７名、年代は20代から60代、男性は８名、女性は13名であった。作業内容はトマトとナス、バジルの収穫を中心に、一部トマトの誘引、作業日時は2023年７月24日から９月29日の間の火・金曜日、８時20分から９時30分頃まで、１日の作業者は５名以内、作業するハウスまでの移動は集合場所から車での送迎で、移動時間は約50分であった。作業日のほとんどの天候は晴れもしくは曇りで、気温は30度以上、ハウス内は40度近かった。

調査は、農作業前と後に日本語版POMS®2の「青少年用 短縮版」(注)を参加者に実施した。複数回参加する参加者には、初回時のみ実施した。POMS®2への回答は、作業前は移動の車の中、作業後はハウス内で行った。統計処理にはWilcoxonの符号付き順位和検定を用いた。

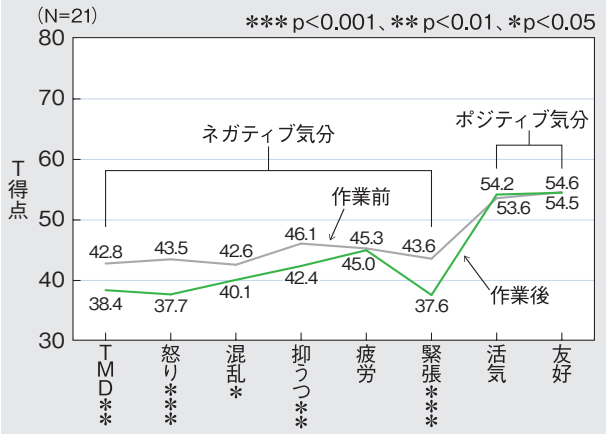
調査にあたっては、口頭および文章にてJALサンライトに趣旨説明を行い、参加者に対してはJALサンライトの担当者が説明し調査への同意を得た(軽度知的障がいのある社員に対しては親族からの同意も得た)。

2　POMS®2の結果

農作業前後のPOMS®2の平均得点の変化を第１図に示した。Ｔ得点の50点は平均値を意味しており、Ｔ得点が40から59点が平均的な得点範囲である。作業前はすべての項目が平均的な得点範囲にあった。作業後はネガティブな気分状態がすべて減少しており、ポジティブな気分状態はほとんど変化がなかった。作業後の「TMD(＝Total Mood Disturbance、ネガティブな感情全般)」「怒り」「緊張(＝不安)」は平均的な得点範囲より低く、かつ「混乱」「抑うつ」も含めて統計的有意差が認められた。

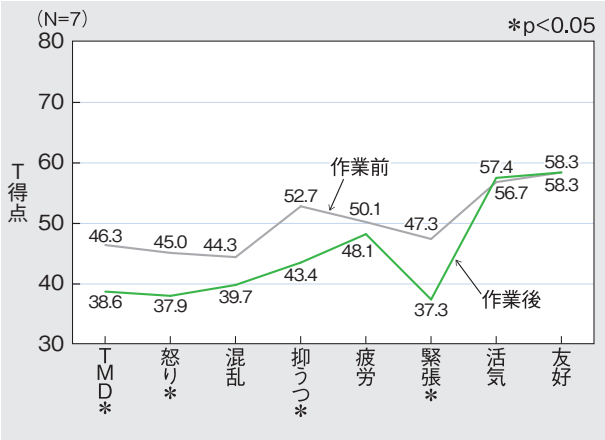
ネガティブな気分状態の変化を個別にみると、21名中減少していたのは「TMD」14名(66.7%)、「怒り」13名(61.9%)、「混乱」11名(52.4%)、「抑

第1図　農作業前後のPOMS®2の変化(全社員)

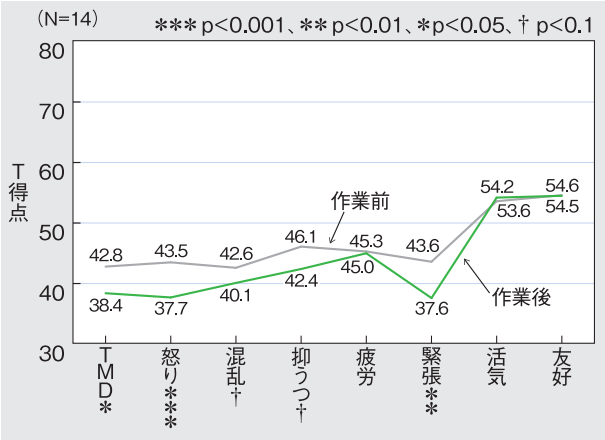


農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/

第2図 軽度知的障がいのある社員の農作業前後のPOMS®2の変化



第3図 健常者社員の農作業前後のPOMS®2の変化



うつ」９名(42.9%)、「疲労」10名(47.6%)、「緊張」15名(71.4%)であった。ポジティブな気分状態は、21名中増加していたのは「活気」10名(47.6%)、「友好」９名(42.9%)であった。

次に、軽度知的障がいのある社員７名の結果を第２図に示した。作業後に得点が最も減少したのは「緊張」であり、統計的有意差が認められたのは「TMD」「怒り」「抑うつ」「緊張」であった。

ネガティブな気分状態の変化を個別にみると、７名中減少していたのは「TMD」６名(85.7%)、「怒り」４名(57.1%)、「混乱」４名(57.1%)、「抑うつ」５名(71.4%)、「疲労」４名(57.1%)、「緊張」５名(71.4%)、ポジティブな気分状態は７名中増加していたのは「活気」４名(57.1%)、「友好」４名(57.1%)であった。

健常者14名の結果は第３図に示した。「TMD」「怒り」「緊張」に統計的有意差が認められ、「混乱」「抑うつ」に有意傾向がみられた。

ネガティブな気分状態の変化を個別にみると、14名中減少していたのは「TMD」８名(57.1%)、「怒り」９名(64.3%)、「混乱」７名(50.0%)、「抑うつ」４名(28.6%)、「疲労」６名(42.9%)、「緊張」10名(71.4%)、ポジティブな気分状態は14名中増加していたのは「活気」６名(42.9%)、「友好」５名(35.7%)であった。

(注)日本語版POMS®２の概要や尺度については尾中(2022)を参照。

3　農作業が心理面に及ぼす影響

軽度知的障がいのある社員と健常者社員との結果を比較したが、各項目の変化に有意差はみられなかった。軽度知的障がいのある社員のほうが、作業前の「抑うつ」と「疲労」の得点が高かったが、作業後は他の項目も含めて両群とも同程度まで低下していた。なお、性別や年齢別にも比較したが、各項目の変化に有意差はみられなかった。

本調査から、農作業が自主的に参加した健常者と軽度知的障がい者のネガティブな気分状態、特に「緊張」と「怒り」を低下させることがわかった。一方で、ポジティブな気分状態である「活気」「友好」の上昇はほとんどみられなかった。

【謝辞】
本稿の作成にあたりまして、株式会社JALサンライトのご担当者様にご協力をいただき、感謝申し上げます。

＜参考文献＞

・尾中謙治(2022)「援農が心理面に及ぼす影響と受入農家の留意点-西鉄グループ社員のアンケート結果に基づいて―」『農林金融』11月号

（おなか　けんじ）